

図書館展示 5月 2005



期間 5月23日 - 6月24日

場所 図書館ブラウジングルーム・AV資料室

---

---

## 江間章子(えま しょうこ)

1913(大正2年)3月13日生 - 2005(平成17年)3月12日逝去

---

---

### 【略歴 活動】

新潟県に生まれ、岩手県西根町に育つ。翻訳本「詩と詩論」の影響を受けて作詞を志す。静岡高等女学校卒。すでに女学生時代から新詩運動に参加し、卒業後に上京。1936(昭和11)とし、詩集「春への招待」を刊行(自費出版)。詩集はほかに「イラク紀行」(1983)、著作に「詩へのいざない」(1957)など。戦後は三好達治、草野心平らと活動した。百田宗治の詩誌「椎の木」の同人となる。戦後「現代詩」「日本未来派」に加わる。1999年、今までの詩業の集大成「江間章子 全詩集」を刊行。米寿を迎えた時には、江間章子の詩業をたたえ「江間章子先生を囲む会」が行われ、ファンなど約280人が集まった。2005年3月12日、91歳、脳内出血のため東京都世田谷区の病院で死去した。あと1日で92歳の誕生日だった。

### 【夏の思い出について】

尾瀬への思いをつづった(夏の思い出)を作詞したのは戦時中のこと。この曲はNHKラジオ歌謡で1949年(昭和24)6月13日より放送。昭和44年からは教科書に掲載され、尾瀬の歌として広く愛唱され尾瀬を一躍有名にした。群馬県片品村ではこの功績を称え、名誉村民の第1号に選定した。また、福島県側の檜枝岐村にも歌碑がある。江間章子の故郷岩手県西根町でも名誉町民第1号に選び、江間章子賞を設けて、県内の小中学生が書いた詩に賞を贈っている。町民体育館で行われる少年少女の詩「江間章子賞」授賞式には、江間章子本人や町長などが出席していた。



### 【その他の作品】

(花の街)(團伊玖磨作曲)…《夏の思い出》の2年前(1947)に江間章子はやはりラジオ歌謡として流行した「花の街」を作詞している。この歌は戦後の焼け野原に、江間章子が夢見た平和の花咲く美しい街だ。詩の3番に「泣いていたよ 街の角で」とあるのは、「戦争によって様々な苦しみや悲しみを味わった人々の姿を映したもの」という。

その後、團伊玖磨とのコンビで交響詩「長良川」や「ながさき」など地域で歌い継がれている合唱の大曲も残したが、花をうたった小品も多く書かれた。

江間章子が住んでいた東京都世田谷区では、芥川也寸志らと世田谷うたの広場「詩と作曲の会」を作り、世田谷区発信の歌の創作を呼びかけた。その第16回の発表会が2005年5月31日に砧区民会館で開催される予定。

### 江間章子著の本

<夏の思い出> その想いのゆくえ 宝文館出版 1987 請求記号 J58-676

愛の調べシューマン 母と子の音楽図書館 音楽之友社 1997 請求記号 061-702

## 展示資料

### 夏の思い出 / 中田喜直

中田 喜直 なかだ よしなお 大正 12(1923) - 平成 12(2000)

江間章子の詩による歌曲集 音楽之友社 1988 請求記号 F15-329

江間章子の詩による女声合唱曲集 音楽之友社 1988 請求記号 F15-350

中学生の音楽 2・3上 教育芸術社 2002 請求記号 J96-738  
(夏の思い出)のページに作詞者と作曲者の顔写真あり

中学生の音楽 2・3上 教育芸術社 1993 請求記号 C57-480  
巻頭に記念碑の前で立っている作詞者と作曲者の写真あり

女声合唱曲集 みんなのなかへ カワイ出版 1985 請求記号 F13-944

「原曲は昭和 24 年、NHK のラジオ歌謡として変ホ調で発表され、後にヘ調で女声三部合唱用に編曲しました。中学校の教科書では二調になっているものが多く、普通うたう場合、ホ調が一番歌い易く自然にきこえるようです。二重唱の時にこの楽譜が使えます。」

『女声合唱曲集 みんなのなかへ』「1985 年夏 中田喜直」より

カワイ合唱名曲選 カワイ楽譜 1964 請求記号 F4-775

「この曲は、はじめ NHK のラジオ歌謡として、1949 年に作曲したが、後に女声合唱用に編曲したものである。夏になると放送や、演奏会でしばしば歌われるので、この曲を知っておられる方が多いと思うが、静かに、美しく演奏すればよい、感情をこめることは勿論だが、決してオーバーにならないよう注意すること。作曲した当時、終りの「とおいそら」の所が現在の楽譜とリズムが違っていたが直したのでこの楽譜が正しい。」

『カワイ合唱名曲選』「1964 年 4 月 中田喜直」より

青木八郎編 混声合唱 20 曲集 音楽之友社 1966 請求記号 F4-647  
混声四部合唱の編成

工藤雄一編 思い出のラジオ歌謡選曲集 全音楽譜出版社 2003 請求記号 F23-272  
(夏の思い出)をシャンソン歌手の石井好子が唄っている。残念ながら当館では音源は所蔵していない。  
原曲の変ホ長調

工藤雄一編 思い出のラジオ歌謡選曲集 2 全音楽譜出版社 2004 請求記号 F23-698

### 「思い出のラジオ歌謡選曲集」の出版にあたって ラジオ歌謡研究会会長 工藤雄一

「ラジオ歌謡」の前身は「国民歌謡」である。昭和 11 年、誰でもどこでも歌える新しい歌を創ってという動きが日本放送協会(NHK)の中からでて、依頼し創作された歌を中心に定時番組「国民歌謡」がスタートした。しかし、1 年ほどで、戦争の色が濃くなり、当初めざした目的からしたいにそれて、戦時歌謡が多くなっていくとともに、数年後には番組の名称も「われらのうた」、そして「国民合唱」に変わっていった。戦後、食糧難やひどいインフレが人々の生活を圧迫していた。戦争で荒廃した日本人の心に、なぐさめと活力を与え続けた最大のメディアが NHK ラジオ放送だった。そして「国民歌謡」の精神を受け継いだ「ラジオ歌謡」が、終戦の翌年、昭和 21 年 5 月、童謡風の明るい歌で始まった。昭和 24 年には、月曜から金曜までの毎日、夕方の放送に変わり、「夏の思い出」(ほか省略)など次々と名曲が誕生していくのである。番組が終了した昭和 37 年 3 月までのほぼ 17 年間に、実に 845 曲も放送された。しかし、レコード化されたものは、約 10% にすぎない。現在では、レコード化された曲の半分程度が CD 化されているにすぎない。

「思い出のラジオ歌謡選曲集」第 1 巻より抜粋



## 日本人作曲家たちとの作品

團伊玖磨 だん いくま 大正13(1924) - 平成13(2001)

---

NHK みんなのうた 15 團伊玖磨 《花の街》 水星社 19-- 請求記号 F12-906

池辺 晋一郎 いけべ しんいちろう 昭和18(1943)-

---

《花の四季》 カワイ出版 1983 請求記号 F10-863

「江間さんの「花の季節」(東京新聞出版局)は「詩画集」となっている。藤原淳三氏の繊細で美しい絵(ポタニカル・アートというのだそう)が左側のページに、江間さんの詩が右側のページに、そしてその花の植物学的な解説が詩の下に、という形で百余篇が並んでいるのである。中国短期大学フラウエンコールの近藤安介氏から合唱曲依頼の話があったのは、1980年のはじめの頃だったと記憶しているが、その後テキスト決定に思いあぐねている時、偶然この「詩画集」を見つけたのだった。さりげない日常的なことばを、誠に優しい手触りで包んだこの美しい詩集にぼくは魅せられ、真正面からの、奇をてらわない、まさに女声合唱的な曲集を書こうと考えるに至った。～後略～」

池辺晋一郎「花の四季」前文より

清水 脩 しみず おさむ 明治44(1911) - 昭和61(1986)

---

清水脩合唱曲集 15 《狼と猿と獺が拾いものをした話》 音楽之友社 1978 請求記号 F11-714

清水脩合唱曲集 1 1 《茉莉花と私》 音楽之友社 1978 請求記号 F4-651

運送屋 手紙 初夏の夜 嫉妬

高木 東六 たかぎ とうろく 明治37(1904)-

---

《ソ連の旅》 音楽之友社 1972 請求記号 F18-318

「ソ連の旅から帰ったばかりの江間さんに詩を依頼。彼女の眼を通したソ連の風物詩で - “モスクーの赤い星”以下七編の詩であった。連曲の追加をおねだりすると、1日もかからずに三篇ほど直ぐ送ってくださった。また追加をというふうについに十五曲に達したのである。」

高木東六「ソ連の旅」より

高木東六抒情歌曲集 《美しい鳥》 合唱界 1958 請求記号 F4-020

黒と赤色の2色刷り。作曲者の顔写真とサインあり。

福井 文彦 ふくい ふみひこ 明治42(1909) - 昭和51(1976)

---

福井文彦合唱曲集 《混声合唱のための組曲 空・道・河》 音楽之友社 1959 請求記号 F2-541

大中 恩 おおなか めぐみ 大正13年(1924)-

---

新大中恩歌曲集 カワイ出版 1994 請求記号 F19-728

(あなたの恋人に会いました~I MET YOUR LOVER)

(枯葉をうたったひとは...~THE MAN WHO A SONG ABOUT FALLING LEAVES)

伊藤 康英 いたう やすひで 昭和35(1960)-

---

伊藤康英歌曲集 音楽之友社 2004 請求記号 F23-579

(あなたの恋人に会いました) (伝言) (冬の花)

**片岡 良和** かたおか よしかず 昭和8(1933)-

14人の作曲家によるこえかたりうた 「イラク紀行」より《太陽が沈むまで》《ジンジャーの花の思い出》  
〈東北の作曲家〉10周年記念出版 全音楽譜出版社 1988 請求記号 F15-495

四季交代合唱名曲コレクション 片岡良和 《粹なそよ風》 音楽之友社 1965 請求記号 F2-919

**安部 幸明** あべ こうめい 明治44(1911)-

安部幸明歌曲集 《ナズナに寄せて》 音楽之友社 1985 請求記号 F14-020

**湯山 昭** ゆやま あきら 昭和7(1932)-

女声合唱曲集 湯山昭 《小鳥よどこ》 カワイ出版 1974 請求記号 F9-355

**橋本 国彦** はしもと くにしこ 明治37(1904)-昭和24(1949)

橋本国彦歌曲集2 《雪が降る》 全音楽譜出版社 1996 請求記号 F20-030

**平井 康三郎** ひらい こうざぶろう 明治43(1910)-平成14(2002)

童謡唱歌 101 番 A 幼児・低学年用 平井康三郎 《つぼみの歌》 音楽之友社 1955 請求記号 F21-171

こどものうた愛唱歌集 《つぼみの歌》 音楽之友社 1992 請求記号 F20-400

### 新しい日本の歌 音楽之友社 詩と音楽の会編

「詩と音楽の会」は1965年に設立され、同年11月19日、日本都市センター・ホールでの第1回発表会に、二期会その他により初演された。詩・曲合計42人が依頼された。(その中に江間章子も含まれている)

「新しい日本の歌」第1集は、設立1周年を記念して委託されたもの。1985年には会員数も220名を超え、最初一夜だけだった発表会も、第13回より二夜にわたって盛大に挙行されるようになった。以来、毎年、文化会館小ホールやイノホールなどで定期的に発表会が行われている。演奏会の全曲目は、ラジオの特別番組として、NHKにより元旦や祭日に全国放送をされた。1987年秋に20周年を迎え、それまでの総作品数は679曲に上る。

「新しい日本の歌」より

#### 所蔵している巻

小村三千三 (花と女) 第1集 <請求記号 F4-675> / 平井康三郎 (マルメロの実がうれる) 第6集 <請求記号 F9-337> / 渡鏡子 (モクマオウの街) 第7集 <請求記号 F9-907> / 岩河三郎 (田舎の動物園) 第8集 <請求記号 F4-063> / 伊藤幹扇 (音があるコーナー) 第10集 <請求記号 F9-909> / 高木東六 (一枚の絵葉書) 第12集 <請求記号 F11-694> / 安部幸明 (ナズナに寄せて) 第17集 <請求記号 F12-429> / 平井丈一郎 (秋の蝶) 第18集 <請求記号 F14-406> / 佐々木茂 (クラリネットを吹く少女) 第20集 <請求記号 F15-103>



図書館展示 2005.5.23-6.24

夏の思い出

中田喜直 作曲

夏がくれば 思い出す  
はるかな尾瀬 野の旅よ  
花のなかに そよそよと  
ゆれゆれる 浮き島よ  
水芭蕉の花が 匂っている  
夢みて匂っている水のほとり  
まなこつぶれば なつかしい  
はるかな尾瀬 遠い空

夏がくれば 思い出す  
はるかな尾瀬 遠い空  
霧のなかに うかびくる  
やさしい影 野の小径  
水芭蕉の花が 咲いている  
夢見て咲いている水のほとり  
石楠花色に たそがれる  
はるかな尾瀬 遠い空